



第22号

発行：
能勢町民生委員児童委員協議会
（略称 民児協）
会長 乾谷 晃
編集：
広報部会
事務局：
能勢町福祉部福祉課福祉担当
大阪府豊能郡能勢町栗栖 82-1
Tel 072-731-2150
Fax 072-731-2151



友愛訪問



子育てサロンにここ



コロナ禍の新しい活動へ

民児協会長 乾谷 晃

平素は、民生委員児童委員協議会にご理解とご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

私たち民生委員・児童委員は、信条の下、多くの関係機関と連携し、地域にお住まいの皆様から生活上の困りごと、心配ごとに関する相談に応じ、必要な支援やサービスへの「つなぎ役」として、日々の活動をしております。

一昨年からの新型コロナウイルス感染症は、世界中に広がり、国内でも、ワクチン接種や検査医療体制の整備が進められるも、感染

は未だ収束に至っておりません。ウィズコロナのライフスタイルのなか、感染前の生活が取り戻せることを願っております。

協議会では、コロナ禍で中止や縮小になりました街頭啓発活動、能勢ふれあいフェスタ、友愛訪問などイベントの復活や区内見守り活動など、十分な活動を取り戻していきたいと考えております。また、今後の事業・活動もリニューアルしていきたいと思っております。

皆様と笑顔でお話ができる日を楽しみに、委員一同心して参ります。

引き続き、皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

新 民生委員・

児童委員の紹介

十一月一日付で、山口安仁さんが民生委員・児童委員に委嘱されました。担当地区は栗栖です。

受賞おめでとう

いづれさま

知事表彰

永年勤続主任児童委員

東ひろ子さん

各分会より

総務企画部会

総務企画部会のこれまでの大きな取り組みとして子育て講演会「人形劇」や、研修として取り組まれてきた「施設訪問」など、多くの活動は前期に続きコロナ禍のもと制約を受け休止状態になっています。

しかし、その中でも「工夫した活動を」と、高齢者見守りに関するアンケート調査をもとに計画した「見守り支援体制の充実」に向けた取り組みの項目から、今回は地域福祉部会が中心となつて取り組まれた「夏のはがき作戦」を紹介いたします。

はがきの内容は写真にもありませんように、日頃訪問してもなかなか



か会えない人を中心に「残暑お見舞い申し上げます。猛暑の中、コロナ禍の中お元気ですか？お困りごとはないですか？」などと各担当地区民生委員の名前を記して約五百枚を投函しました。

実施後の集約の中で、「はがき頂いてありがとう」「届いたよ」「うれしくて何度も読んだよ」「札状をいただきました」などの意見が出されました。また、「毎日お会いする方に出すのもどうかな？」「高齢者のために文字を大きくしたら」などの改善点もありました。

地域福祉部会

地域福祉部会活動にご協力いただきありがとうございます。二〇二一年はコロナ禍により身守り訪問活動は、皆様の感染病予防対策の為、対面による訪問が少なくなりました。

「夏のはがき作戦」に続き、「冬のはがき作戦」は年賀状として出すことにしました。高齢になる方と年々年賀状が少なくなる方もお

られると思います。そこで、少しでも明るい年を迎えていただきたらと思いい、年賀状をお送りすることにしました。



また、三年に一度の福祉マップの更新、一人も見逃さない運動で、災害時に避難をする時に要支援者の把握調査に関しては、区長（自治会長）や自治防災担当の方々に協力をいただき、ありがとうございます。調査票を地域ごとにマップに落とし込み、見守り対象者の方がどこにおられるか、緊急時の連絡先など一目で分かる

やすく、地域の担当者が、避難支援等見守りに備えています。配布、回収時には皆様方と対話ができました。安全・安心でも皆様方のお役にたてるよう努めて参ります。

児童福祉部会

子育てサロン(にこにこ)

今年度も新型コロナウイルス感染症拡大のため、活動休止・再開の繰り返しでした。

感染状況が収まると、感染対策を





主任児童委員部会

校内マラソン大会の支援

「がんばれ！がんばれ！」「もう少しだ！」「フアイト！フアイト！」「ラストスパート！」
保護者をはじめ、地域のボラン

十分とりながら実施してきました。多くの行事等が中止になり、交流の機会が少なくなる中で、子どもさんも親同士も楽しんで過ごすことが出来ました。
なかでも、十二月十七日（金）に開催された「正月飾りを作ろう」では、子育て世帯の親御さん・子どもさんと一緒に正月飾りを作成し、その様子が能勢町の広報「のせ」の表紙に掲載されました。



ティア、教職員、子どもたちからの熱い声援が飛び交う中、歯を食いしばって走る子、急に走り出す子、首を横に振って走る子、みんな精いっぱいゴールを目指して走っていました。
どの学年も自分たちの学年以外の子どもたちに精一杯応援する姿が微笑ましく、とても素敵な光景でした。
このように、主任児童委員は、『能勢町地域学校協働本部』の構成員として、民児協を代表して学

校の運営に参画して、授業や学校行事の支援など、様々な活動を行っています。

マラソン週間として、十月十九日から毎日休み時間を利用してマラソン周回走を続けてきました。
低・中・高学年と距離を変え、音楽に合わせて10分間走ります。十周、七周走る子ども、歩かなかつた子ども、明日ももう一周走ろう。毎日の積み重ねが大切だと思います。

毎回、自分の目標を持ち、「昨日の自分より今日の自分が成長できるように！」

「自分で、自分を、高めよう！」
この精神が、「ささゆり学園」の『教育の姿』の一つです。

広報部会

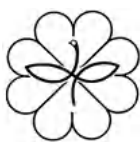
能勢町のホームページの「民生委員・児童委員について」の項目がリニューアルされ、「能勢町民児協だより『ささゆり』」の項目が新たに追加されました。
今は「ささゆり21号・22号」しか掲載されていませんが、今後追加していく予定です。

また、参考リンクとして全国や府の民生委員児童委員連合会の、ホ

ームページもありませんので是非一度ご覧下さい。

能勢町のホームページで「民生委員」で検索していたら、下のQRコードを読み込んでください。

「ささゆり」の前にあるマークは、全国民生委員・児童委員協議会のマークとしても使用されています。



幸せの芽生えを示す四葉のクローバーをバックに、民生委員の「み」の文字と、児童委員を示す双葉を組み合わせ、平和のシンボルの鳩をかたどって、愛情と奉仕を表しています。



能勢町民児協だより『ささゆり』

- ささゆり第22号（令和4年3月23日）（PDFファイル: 5.8MB）
- ささゆり第21号（令和3年3月24日）（PDFファイル: 5.8MB）

参考リンク

- 厚生労働省HP 「民生委員・児童委員について」
- 政府広報オンラインHP 「ご存じですか？地域の身近な相談相手『民生委員・児童委員』」
- 全国民生委員児童委員連合会HP
- 大阪府民生委員児童委員協議会連合会HP

地区活動報告

歌垣山登山を終えて

令和二年の二月から新型コロナウイルスという、今まで我々が経験したことのないような感染症が蔓延し、いろいろな行事が中止や延期になって早二年の月日が過ぎようとしています。

歌垣地区民生委員・児童委員をはじめ、各種団体が入っている歌垣福祉委員会でも、コロナ禍の中でも何かできるような活動がないかと話し合いをしてみました。しかし、なかなか決まりませんでした。



ある時、「歌垣山」に登ってみてはどうかという意見がでて会として実行しようということ、一致しました。

歌垣地区の区長会・歌垣山顕彰会・体連歌垣支部・子ども会育成会・更生保護女性会・OB会など多くの方々の協力を得て、実施することになりました。

十月二四日（日）午前十時に旧歌垣農協前に、七十数名の参加者が

集まりました。小学校低学年から七十歳代と年齢幅も広く、日頃体を動かすことが少ないのか、みなさん生き生きとされていました。

天気も良く約一時間で、殆どの方が登頂されました。山頂に到着すると素晴らしい眺望が開け、深山や剣尾山・三草山そして遠くには六甲山まで見渡すことが出来、皆さん感動されていました。

歌垣山は標高五五三mのそんなに高くない山ですが、歴史的には大変興味深い山なのです。古文書にも記されていますが、昔、若い男女が火を囲み、歌を詠んだり遊んだりという風習があったと言われています。そんな太古の様子を頭に浮かべながら歌垣顕彰会の方に、歌垣山にまつわる色々な話を説明していただきました。みなさん感動されたようでした。その後食事をしてからビンゴゲームをして楽しみました。

登山から下山までわずか四時間たらずのイベントでしたが、「足もと気つけよ」とか「無理せんでええで」とか、お互い相手を気遣って声を掛け合ったりしておられた様子でした。

人への思いやりの心、何よりも今回企画した中で一番うれしかった光景かもしれません。

今まで旧歌垣小学校校庭で「うたがき『ふれあい』まつり」を行

っていましたが、今回初めて登山をし、得たものは大きかったと思います。皆さんも是非一度歌垣山に足を運んで下さい。

（歌垣地区民生委員・児童委員 中 昌宏）

訃報

栗栖地区担当の民生委員・児童委員の齊藤克博さんが、昨年九月にご逝去されました。謹んでご冥福をお祈りします。

編集後記

広報委員会では、民児協の活動を広く理解してもらうために「取材活動の強化とタイムリーな広報の推進」を目標の一つに掲げました。

しかし、新型コロナウイルス感染症が一向に衰えず、民児協の各種の行事が中止になり、その取り組みの様子を広報することができませんでした。

次回の広報誌では、各種の行事報告ができることを願うばかりです。

（広報部会）